

登熟期の異常高温に負けない「丈夫な稲づくり」の実践を!!

地域の水利事情に応じ、ほ場が乾かない程度の『浅めの飽水管理』を行いましょう!

1. コシヒカリの生育状況について（7/30 調査：生育調査 14 地点平均値）

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/ 6	110.6	431	13.1	34.6
和島	5/ 8	102.5	460	13.1	34.2
出雲崎	5/ 5	104.0	385	13.0	32.5
三島	5/ 5	99.3	378	13.0	33.5
与板	5/12	100.1	328	13.0	30.8
こしじ	5/11	101.9	353	13.1	37.6
平均	5/ 8	103.6	397	13.0	33.9
7/30 指標値	—	92.0	360	12.8	33.0
平均との 指標値比	—	112% 長い	110% 多い	6日程 早い	+0.9 並み

- ① コシヒカリは前回調査と比べ、葉色は維持・回復の傾向にあり、穂肥施用の効果が見受けられます。出穂期の理想の葉色値:33を確保できている圃場が多く見受けられます。
- ② 予報ではコシヒカリの高温感受性の最も高い期間(出穂後10～13日)において、猛暑日に遭遇します。
→シラタ米の発生防止のため、浅めの飽水管理に努めましょう。また、可能な場合は夜間入水により地温の低下を図りましょう。

2. 出穂期～登熟期間の飽水管理の徹底について

- ① 長期間にわたるタメ水は厳禁! →根腐れを助長してしまいます。
長時間（24時間以上）のタメ水は、根の活力・機能低下を招きます。
日中に暖まった水(≒お湯状態)の湛水状態で夜を迎えると、夜間の涼しい時間帯でも「外気温以上の水温」により稲体を消耗させ、養分転流(登熟)を阻害してしまいます。さらに根の活力・機能の低下は、養水分の吸収能力低下の要因となり、登熟に大きな悪影響・品質低下を招きます。
→但し、フェーンの発生が予想される場合は溜水し、白穂や不稔を防止しましょう!
- ② 最終かん水日は出穂後25日以降とし、暗渠栓の開放を可能な限り遅くしましょう。
早すぎる落水(出穂後25日前の完全落水)は、籾水分の過度な低下による品質の低下(胴割粒・未熟粒の発生)につながります。可能な限り、収穫間際まで飽水管理を継続しましょう!!
～ 8月上旬より高温予想! 浅めの飽水管理により、高温障害・シラタ米を回避しましょう!! ～



格落理由	被害写真	発生条件
背白粒		◇出穂後5～24日(登熟初中期)の長期間にわたる高温条件 → 登熟前半の高温の影響:大 → 玄米の炭水化物受入能力の低下 * 登熟期の栄養不足(窒素不足)～後期栄養凋落が発生を助長 * 出穂後の不適切な水管理 → 長期湛水や早期落水 → 登熟初期からの継続的な高温条件により、登熟後期の玄米中のデンプン蓄積能力が低下し背側が白濁する
心白粒		◇高温感受性の最も高い期間(出穂後10～13日)の高温条件 ～ フェーン等による強い「高温ストレス」+「水分ストレス」 ◇登熟初中期(出穂後20日間)の平均気温が高い * 登熟期の栄養(窒素)不足が発生を助長(1回目の穂肥量の不足) * 出穂後の極端な水不足(渇水)、早期落水 → 根・稲体機能の低下

3. 出穂期と刈取適期（予想） 7/30 調査時点で、収穫は早まる見込みです!

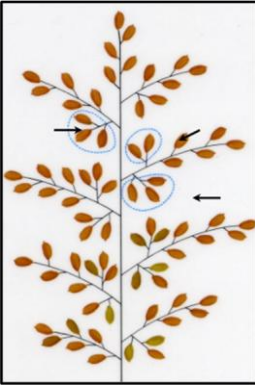
- ① 管内全体のコシヒカリ出穂期は平年比6日ほど早い状態を迎えています。
→ 北部地区：7/26～7/31、中部地区：7/27～8/3、こしじ地区：7/27～8/7
- ② 下表の刈取適期（予想）を参考に適期収穫に向けた刈取作業計画を立ててください。また、高温年は下表積算温度より「-50℃」で開始します。

品 種 名	出穂期（※は予想）	刈取適期（予想）	積算温度の目安
ゆきみらい	7月 8日 ～ 7月 14日	8月 12日 ～ 8月 19日	975℃
五百万石	7月 13日 ～ 7月 23日	8月 18日 ～ 8月 29日	
わたぼうし	7月 14日 ～ 7月 22日	8月 19日 ～ 8月 28日	
こしいぶき	7月 16日 ～ 7月 30日	8月 21日 ～ 9月 05日	
ゆきの精	7月 19日 ～ 7月 22日	8月 24日 ～ 8月 28日	
たかね錦	7月 20日 ～ 7月 26日	8月 25日 ～ 9月 1日	1,000℃
こがねもち	7月 13日 ～ 7月 20日	8月 19日 ～ 8月 26日	
コシヒカリ	7月 27日 ～ 8月 7日※	9月 3日 ～ 9月 16日	
越 淡 麗	8月 1日 ～ 8月 9日※	9月 11日 ～ 9月 20日	1,000～1,050℃
千 秋 楽	8月 5日 ～ 8月 13日※	9月 15日 ～ 9月 26日	
新 之 助	8月 5日 ～ 8月 12日※	9月 19日 ～ 9月 28日	1,050～1,100℃
にじのきらめき	8月 1日 ～ 8月 6日※	9月 18日 ～ 9月 24日	1,100～1,200℃

- * 刈取適期（予想）：長岡アメダスデータの積算で算出（8月2日までは本年値、以降は平年値）
- * あくまでも目安です。今後の天候やほ場ごとの出穂期・栽培条件 等により前後します。
- * 特に高温時は積算温度と収穫適期に乖離があるため、実際に圃場を良く観察しましょう。

4. 適期収穫に向けた判断について

- ① 出穂日以降の積算温度に基づく刈取適期予想(上記表)を参考に作業計画を策定して下さい。
今後も高温気象が続く予想となっていることから、早めにほ場ごとの籾黄化割合を観察して「黄化籾割合が85～90%程度になった時期」を基本とし、収穫作業を開始して下さい。
- ② 刈取適期以降は日を追って胴割粒の発生率が増加します。刈取適期から遅くとも5日以内に刈り取りできるように作業計画を策定し、乾燥機的能力に限界がある場合には、カントリーエレベーターやライスセンターの共乾施設利用により、適期刈取に努めて下さい。



【1穂での刈取適期目安】
圃場の中庸なところから平均的な穂を選んで調査します。
写真：黄化籾の割合が85～90%程になった頃（上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗が黄化した頃）で



【バラ籾での刈取判断】
圃場の中庸なところから5～6穂程度(約400粒)を抜き取り、脱穀して9cmシャーレ等に並べて調査します。
写真は籾の黄化率が80%で、概ね1～2日後に85%を迎えます。

営農 LINE 登録者はスマホ版で鮮明な写真で確認できます!

5. 適正な乾燥・調製について

- ① 収穫後は、籾を速やかに乾燥機に搬入～通風し、ヤケ米の発生を防止しましょう。
- ② 胴割米の発生を防止するため、乾燥機の毎時乾減水分は0.5～0.6%としましょう。0.8%を超えると、胴割米の発生率が急激に高くなります。
→ 成熟期～収穫期の高温により立毛胴割れが予想される場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定するとともに、過乾燥には十分に注意してください。
- ③ 仕上げ水分は「14.5～15.0%」に仕上げましょう。→ 過乾燥は胴割れ・食味低下を招き、高水分玄米(15%以上)は、玄米水分の戻りによるカビ米の発生原因となります。

R8 出穂期	収穫		8/6	8/7	8/8	8/9	8/10
	出穂	気温					
	7月6日	855	882	909	935	962	
	7月7日	829	856	883	910	937	
↑	7月8日	803	830	856	883	910	
	7月9日		801	828	855	882	
	7月10日				826	853	
	7月11日					825	
★ ゆきみらい	7月12日						
↑	7月13日						
↓	7月14日						
★ 五百万石	7月15日						
★	7月16日						
↑	7月17日						
★ わたぼうし	7月18日						
★ こしいぶき	7月19日						
↑	7月20日						
★ ゆきの精	7月21日						
↓	7月22日						
	7月23日						
	7月24日						
	7月25日						
	7月26日						
↑	7月27日						
★ コシヒカリ	7月28日						
	7月29日						
	7月30日						
	7月31日						
↑	8月1日						
★ にじのきらめき	8月2日						
★ 越淡麗	8月3日						
	8月4日						
↑	8月5日						
★ 新之助・千秋楽	8月6日						
↓	8月7日						
	8月8日						
	8月9日						
	8月10日						
	8月11日						
	8月12日						
	8月13日						
	8月14日						
	8月15日						
	8月16日						
	8月17日						
	8月18日						
	8月19日						
	8月20日						

[illegible][illegible][illegible]